考古学地理情報分析計画シート（20250623第1版）

タイトル：千葉市内の加曽利E式後半期土器出土遺跡の立地

対象地域・範囲：千葉市域

時代・時期：加曽利EⅢ式期～称名寺式期（縄文時代中期末葉～後期初頭）

研究上の問い：縄文時代中期末の分散居住期と説明される当該期における分散居住の実態及び当該期内の変遷を住居の立地から視覚的に示すことを修士課程で目指している。今回はその前段階として千葉市内で当該期の土器を出土しているとされている遺跡をまとめる。

データセット

・主な分析対象：遺跡地図・台帳データ

・データソース：

『史跡　加曽利貝塚　総括報告書　第１分冊（千葉市教育委員会2017）』

「加曽利E式土器集成研究①～⑤（佐藤2019、米倉2020、館2021・2023、渡邊2025）」

文化財総覧GIS

・データ整形：文化財総覧GISを活用しながら手動で遺跡の世界測地系座標を取得

可能な限り、土器をもとに時期を細分

地理情報解析対象

・ラスタデータ：地理院10mDEM→標高データの取得のため

・ベクタデータ：国土数値情報土地分類→立地（地形分類）データ取得のため

国土数値情報流域界→流域（水系域）データ取得のため

解析手法

・地理空間情報の取得：入力データセットと解析対象データを重ね合わせ、ポイントで取得する

　・ラスタプロセシング→ラスタ解析→ベクタレイヤにラスタ値を付加→

　・ベクタ：ベクタ→属性の空間結合→ポイントデータのレイヤ＋重なる（overlap）

・集計：属性テーブルをcsvで書き出し、遺跡情報表に標高と水系のデータを追加する。

図化

・背景地図：地理院タイル（陰影起伏図）

・重ね合わせ地理情報

国土数値情報水域（千葉県）

・図化

　・分布図：入力データのポイント表示、一部の遺跡では実際の遺構図面をジオリファレンスによって地図上に表現する。

　・その他の解析図：ボロノイ分割

データセット引用文献一覧

千葉市教育委員会2017『史跡　加曽利貝塚　総括報告書　第１分冊』

佐藤　洋2019「加曽利Ｅ式土器資料集成研究①（千葉市内編）」千葉市立加曽利貝塚博物館『貝塚博物館紀要』45、pp47-60

米倉貴之2020「加曽利Ｅ式土器資料集成研究②　―印旛地域との比較検討―」千葉市立加曽利貝塚博物館『貝塚博物館紀要』46、pp41-54

館　祐樹2021「加曽利Ｅ式土器資料集成研究③　―北西部地域を対象に―」千葉市立加曽利貝塚博物館『貝塚博物館紀要』47、pp53-61

館　祐樹2023「加曽利Ｅ式土器資料集成研究④　―千葉市域の加曽利Ｅ式終末期の様相について―」千葉市立加曽利貝塚博物館『貝塚博物館紀要』49、pp41-48

渡邊　玲2024「加曽利Ｅ式土器資料集成研究⑤　―内房地域編―」千葉市立加曽利貝塚博物館『貝塚博物館紀要』50、pp115-133

加曽利E式土器集成研究①～⑤（佐藤2019、米倉2020、館2021・2023、渡邊2025）」